

はなの輪

広島市植物公園植物友の会

2022年10月-12月 通巻第173号



園長のおすすめ 2021年10月28日号より

モクキリン(杓キリン) *Pereskia aculeata* Mill.

熱帯アメリカ原産のサボテン科の植物です。茎はつる状に伸びて長さが10m以上にもなり、楕円形の葉をつける姿は、とてもサボテンには見えません。

しかし、茎や果実には刺があり、花の形も他のサボテン類に似ています。このモクキリンのような形の種類がウチワサボテンやハシラサボテンの祖先だったと考えられています。

(園内位置：サボテン温室)

[写真・文 世羅 徹哉]

園長のおすすめ

植物公園ブログでは、園長のおすすめを定期連載中です。

見ごろの植物や最新のイベント情報も掲載しています。



<https://blog.hiroshima-bot.jp>



夜間開園のしゃべる木

植物公園では、例年、春、秋、冬に「夜間開園」を行っています。

春は夜桜、秋は夜に咲いたり香ったりする植物、冬はクリスマスモードあふれるイルミネーションをメインにして、コンサートやムードを高める展示などを行っています。

毎年、少しずつ新しい小ネタも加えながらいろいろと趣向を凝らしていますが、2022年の春には職員の提案による「しゃべる木」にチャレンジしました。

どんなものかといいますと、木の幹にプロジェクターで写した顔が「しゃべる」、といったものなのですが、園路から見やすい場所にあって、ある程度幹の太い木ということで、ベゴニア温室とログハウスの間にあるケヤキを投影する木に選びました。

次に、顔のデザイン作成ですが、私の個人的な思い入れで、「ケヤキといえば、学名を付けた牧野富太郎博士」、「牧野博士といえば来年のNHKの連続テレビドラマの主人公」ということで、早速、牧野博士をモチーフに作ってみました。

結果を申しますと、作ったデザインは周囲にあまり評判が良くなかったのでお蔵入りし、新しいキャラクターデザインに取り組みました。

その結果出来上がったのが、ケヤキの妖精「ゼルコバ爺さん(写真1)」です。ちなみに、「ゼルコバ」はケヤキの属名です。



写真1. ゼルコバ爺さん

このゼルコバ爺さんをしゃべっているようなアニメーションにして、それに男性職員がアフレコ(声を入れること)して「ネタその1」は完成しました。

周囲に自慢げに感想を聞いたところ、これ自体には否定的な意見はありませんでしたが、「かわいいキャラクターも欲しい」という意見があったので、「ネタその2」としてゼルコバ爺さんの孫「ピノッキー(図1)」を作りました。ちなみに、ピノッキーは女性職員がアフレコし、かわいい仕上がりになったと思っています。

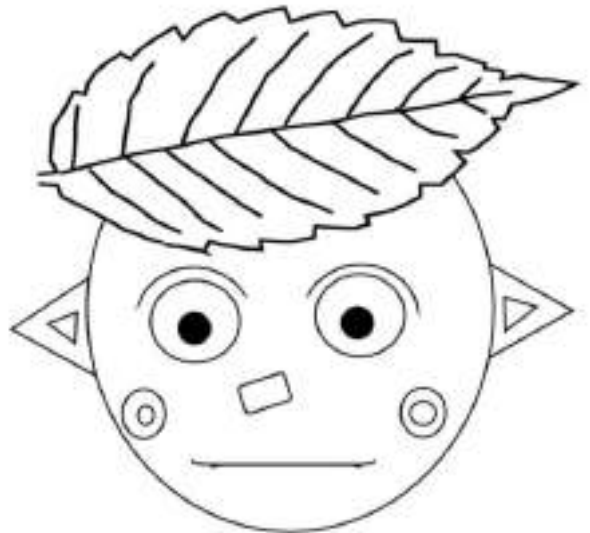


図1. ピノッキー

ゼルコバ爺さんとピノッキーの動画は、雨降りの日を除き、夜間開園の暗い時間帯に投影し、「しゃべる木」の「上映」を行いました。手作り感あふれる作品でしたが、お子様には好評だったようです。

本稿が配布されているころには終わっているはずですが、9月の秋の夜間開園でもリバイバル上映を行います。ご覧になった方々に喜ばれていただきたいと思います。

将来は、大温室のバオバブも「しゃべる木」にすべく、悪だくみ中です。

お楽しみに。

[写真・文 濱谷 修一]

2022年10月～12月 展示会・イベント案内

秋のグリーンフェア期間中 [10/29～11/3] は入園料無料（駐車場は有料）

10/29 (土)
～ 11/3 (日)

秋のグリーン フェア2022

クイズラリーやコンサートなど家族で気軽に秋の緑に親しんでいただけるイベントが盛りだくさんです！！

11/3 (水)

植物公園開園 記念行事

クイズラリー（ゴールで花苗プレゼント）や広島ジュニアマリンバアンサンブルコンサートなどを行います。

11/26
12/3,10,17,24
(毎週土曜日)

花と光のページェント (夜間開園)

キャンドルやイルミネーションで園内を華やかに彩るとともに植物のライトアップも行い、幻想的な雰囲気演出します。展示温室のクリスマスムード満点の装飾も必見です。クリスマスコンサートもあります。

展示会のご案内

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、展示会・イベントを中止・延期する可能性があります。

特別企画展 コケの不思議展	協力：広島大学ほか	9/23～12/25	展示資料館
野生きのご展	共催：広島きのご同好会	10/1～10/2	展示資料館 2階講堂
秋の山野草展	共催：広島山草同好会	10/1～10/6	屋外展示場
サボテン・多肉植物展	共催：広島カクタスクラブ	10/8～10/23	展示温室
ガーデニングコンテスト作品展	共催：広島県花き商業協同組合	10/22～11/3	カスケード
ハンギングバスケット作品展	共催：日本ハンギングバスケット協会広島・島根合同支部	10/22～11/3	大温室前
秋の洋ラン展	協力：広島洋蘭倶楽部ほか	10/29～11/6	展示温室
キク展		10/29～11/20	屋外展示場
寒蘭展	共催：広島和蘭会	11/9～11/14	展示温室
クリスマス飾るフラワー展		11/19～12/25	展示温室



Event Information 2022 10-12

植物公園で開催されるイベントを紹介します

10月

秋の山野草実演会（先着50名）
10月2日（日）午後1時半～2時半

コケの不思議展ギャラリートーク
10月10日（月・祝）午前10時～11時の間随時

みどりとむし講座（先着100名）
「アサギマダラ観察会」
10月15日（土）午前11時～正午

ガーデニングコンテスト受賞作品解説
（先着100名）
10月23日（日）午後2時～2時40分

特別企画展講演会「コケの不思議な世界」
（先着100名）
10月29日（土）午後1時半～3時

11月

季節の園芸講座（第3回）（先着100名）
11月5日（日）午後1時半～3時

コスモスのお花摘み（先着200名）
11月6日（日）午後1時半～3時半

コケの不思議展ギャラリートーク
11月10日（木）午前10時～11時の間随時解説

植物友の会特別講義（一般先着50名）
「薬用植物について（仮）」
11月13日（木）午後1時半～3時





12月

コケの不思議展ギャラリートーク
12月10日（土）午前10時～11時の間随時解説

新型コロナウイルス感染症の拡大状況によっては、イベントを中止・変更する可能性があります。
来園前に最新の状況を植物公園ホームページや電話でご確認ください。

- *毎週土・日曜日・祝日 午後1時半～3時20分は、ガイドボランティアが園内を案内しています
- *毎月第2火曜日・第4土曜日 午前11時～は、園内で職員による植物うんちくガイドを実施しています

◇募集◇ ※往復ハガキに催し名・住所・氏名・電話番号（・希望日）を記入してお申込みください。
植物公園のホームページ（Web申込のQRコード）からもお申込みいただけます

催し名・日程	内容等	定員	締切	Web申込
コケ観察会①龍頭峡（安芸太田町） 11月12日（日）午前10時～午後3時	広島でここだけ！渓流のコケの森の観察参加費：100円 備考：現地集合・解散	20名 （抽選）	10月23日 【必着】	
クリスマスリース作り講習会 11月20日（日）午後1時半～3時	クリスマスに玄関や室内を飾る壁掛けを制作します。 材料費：未定	30名 （抽選）	11月2日 【必着】	
冬のガーデニング講座 11月26日（土）午後1時半～3時半	正月の玄関にも飾れる初冬のハンギングバスケットを作ります。 参加費：3,500円	15名 （抽選）	11月2日 【必着】	
コケ観察会②広島大学（東広島市） 12月11日（日）午前10時～午後3時	顕微鏡等を使っての身近なコケの観察等参加費：100円 備考：現地集合・解散	20名 （抽選）	11月23日 【必着】	

レストラン前花壇の四季

Seasonal flowers of flowerbed
(near Restaurant)

ネモフィラ (4月~5月)



ヒマワリ (7月~8月)



コスモス (10月~11月)

森のレストラン前の広い花壇では、春はネモフィラ、夏はヒマワリ、秋はコスモスと季節ごとにおすすめの草花を植えています。一面のお花畑の中で、写真を撮ることができる人気スポットです。11月6日の午後1時半~3時半には、コスモスのお花摘み体験も行います(当日先着200名)。

特別企画展「コケの不思議展」 Moss exhibition



コケ化石「クンノコゴケ」



コケテラリウム (イメージ)



蘚苔曼陀羅 (せんたいまんだら)



龍頭峡 (日本の貴重なコケの森)



クジャクゴケ (クジャクゴケ科)



ムチゴケのなかま (ムチゴケ科)

今年の特別企画展のテーマはコケ植物です。小さくて美しいコケの世界を写真や実物(標本やテラリウムなど)で紹介いたします。会場では、日本に一つしかないコケ化石「クンノコゴケ」や全長3.6mの蘚苔曼陀羅など珍しいものもご覧いただけます。また期間中は、講演会や観察会など、「コケ」に関連した様々なイベントも企画しています。詳しくは企画展ちらしをご参照ください。

10月～12月に見ごろを迎える植物



サルビア・レウカンサ
(ログガーデンほか)



クレマチス ジングルベル
(花の進化園)



皇帝ヒマワリ [ニトベギク]
(花の進化園)



ジャスミンム・ノビレ
(大温室)



桃色イペー
(大温室)



アリストロキア・トリカウダタ
(大温室)



シーマニア ジャックランタン
(熱帯スイレン温室)



セネシオ 緑の鈴
(サボテン温室)



バラ グラナダ
(バラ園)



チョウセンノギク
(ロックガーデン)



シクラメン・ヘデリフォリウム
(ロックガーデン)



オオバショウマ
(里山の野草園)

実りの秋がやって来ました。今年の友の会例会では、「ボタニカ漫談」と題して、植物にまつわる様々な物語をお話しています。7月には主食の話をしました。我々の主食であるお米と一口に言っても様々な種類(ブランド・銘柄米)が知られています。この機会に、地元広島のおいしい銘柄米「あきろまん・こいもみじ」はいかがでしょう？

[写真・文：久保 晴盛]

Plant Doctor Q&A

植物公園では、緑の相談窓口を設置しています。
家庭園芸のお困りごと、何でもご相談ください。
[☎082-922-3600 金曜を除く午後1時～4時]

Q. 家庭でも育てやすい球根ペゴニアがあると聞きました。品種名と育て方を教えてください。

A. ‘フォーチュン’という品種名の球根ペゴニアが丈夫で育てやすく、種子や球根、もしくはポット苗で販売されています。植物公園のペゴニア温室で観られる球根ペゴニアのような超大輪ではありませんが、コンパクトな草姿に八重の雄花と一重の雌花を多数咲かせます。

一般に球根ペゴニアは春植え球根に分類されますが、高温多湿にとっても弱いので、広島のような温暖な地域では夏に枯れてしまいます。そのため、春に球根を植えても真夏到来までのごく短い期間しか花を楽しむことができません。

‘フォーチュン’も同様に暑さには弱いのですが、他の多くの球根ペゴニアほど長日開花性が強くなく、やや短日下でも開花する性質があるため、秋から開花させて楽しむという方法が可能です。幸い、本品種は秋にポット苗が流通するので、早めに入手すれば、戸外で花を楽しむことができます。加えて、10～12℃でも開花するため、11月まで花が見られます。さらに長日下であれば、よりいっそう花付きがよくなるので、玄関や街灯下などの夜も明るい場所がおすすめです。

なお、晩秋から初冬に地上部が枯れて休眠するので、鉢植えであれば球根を掘り上げずに水やりを中止し、凍らない所で管理します。庭植えであれば球根を掘り上げて室内で保管し、春に植え付けます。あるいは、秋に花が乏しくなり始めたなら暖かい室内に取り込み、窓辺で育てると冬も花が見られます。

[文 島田 有紀子]

Q. 植物公園内にある「景石を楽しむ見本園」の「湯来の青石」が青くないのはなぜですか。

A. 風化作用によるものです。湯来の青石とは、広島市佐伯区湯来町で多く見られる青みがかかった石の総称で、湯来町を流れる水内川みのちの河原等では、青い石畳を見ることができます。

岩石学的には、「輝緑凝灰岩きりょくぎょうかいがん」の名で知られていましたが、近年は、「変はんれい岩類」とも呼ばれます。

中に含まれる緑泥石りょくせいせきなどの鉱物によって、緑～青に見える「変はんれい岩」が含まれます。

当園で展示している湯来の青石は、褐色～白っぽく見えるため、岩石本来の色とは異なります。しかしながら、庭の景観を整える役割を持つ自然石である「景石」としては、風化によって表面がぼろぼろになった様子もまた味があると言えるかもしれません。

[文 山本 晃弘]

Q. 庭に植えるのにあまり手間をかけずに楽しめる花を教えてください。

A. 一度植えれば数年植え替え要らずの宿根草を上手に使えば、少ない手間ですぐ庭を鮮やかに彩ることが出来ます。あらかじめ用途や植える環境をよく考え、それらに応じた性質のものを選ぶようにするのがポイントです。ガウラやチェリーセージ、カラミンサなどは長期間花を楽しめ、柔らかい印象の小花なので組み合わせやすいでしょう。ルドベキアやエキナセア、ヘリオプシスは花の少ない夏の時期によく咲き特に目を引きます。また、葉を楽しむカラーリーフは花が途切れる時期でも花壇に賑わいをもたらします。シロタエギクやラムズイヤーなど定番のシルバーリーフのほか、日陰ではヒューケラやギボウシ、アジュガなどがよく使われます。

上記に挙げたものはどれも時期に応じて剪定やすかし、花がらつみ等が必要なものの、ほとんど手がからず花壇で存在感を発揮してくれます。宿根草には今回紹介したもの以外にも開花期や草丈などが異なる様々なタイプのもので、お庭の環境や好みにあったものを探してみてください。

[文 大矢 祐一郎]



フォーチュンペゴニア



湯来の青石

変化に富むベゴニアの葉

当園で人気の高い植物のひとつに球根ベゴニアがあります。ベゴニア温室では、冷暖房によって室温を15～25℃に保ち、夏は遮光ネットで光を弱めるとともに、秋から春にかけては、照明で光の当たる時間を延長して花を一年中観賞できるようにしています。ですが、当温室の魅力は球根ベゴニアだけではありません。変化に富んだ野生種も一堂に観賞することができます。

ベゴニアはシュウカイドウ科ベゴニア属の植物で、オーストラリアを除く世界の熱帯と亜熱帯地域に1,500種余りの原種が分布し、今もなお新しい種が発見され続けています。熱帯といっても、多くの原種が林床や高地に自生しているため、暑い季節でも気温が25℃を超えることはなく、最低気温も7℃を下回ることもない温帯な気候帯が主な分布域です。分布が広範囲にわたるため、葉や茎の大きさや形、花の形などその形態は非常に変化に富んでいます。そのことがベゴニアの栽培・収集の大きな魅力のひとつと言えるでしょう。そこで、今回はベゴニアの葉に注目してみたいと思います。

多くの植物は普通、主脈を中心に左右対称の形をした葉を持っていますが、ベゴニアのほとんどの葉は主脈より内側の面積が狭く外側が広いという偏った形をしています。熱帯雨林の林床など薄暗い環境に生育するため、外へ外へと光を求めて葉面積を拡大させていったのでしょうか。この左右非対称の葉がベゴニア属の大きな特徴のひとつです。その偏平な形にちなみ、誰が名付けたかはわかりませんが、花言葉は「片思い」です。葉は、周辺に切れ込みがなく整った形で天使の翼のような「エンゼルウィング形」、くるくる回った「渦巻形」、深い切れ込みを持つ「トサカ形」、シダの葉に似た「羽状複葉」などその形はさまざまで、同じ属とは思えないほど変化に富んでいます。葉の形だけでなく、葉の大きさも1cmほどの小さなものから、30cmを超える大きなものまでさまざまです。

そのほか葉の魅力は多様な色や質感にも現れています。特に、*Begonia rex*をもとに改良されたグループ「レックス・ベゴニア」には、ビロードの質感、金属のような光沢を持つものや、赤色を始めいくつかの色や模様が複雑に入り混じった葉があり、特に昨今のコロナ禍では、インドアプランツとして楽しむにはおすすめです。

ベゴニア温室に来られる方は、鮮やかで色とりどりの球根ベゴニアの花に注目することが多いようですが、独特で興味深い葉の特徴にも注目してみたいはいかがでしょうか。原種コーナーなどでは姿形が変化に富むベゴニアを見ることができます。花とともに葉そのものをじっくりと観察していただき、その違いを見比べてみるのも楽しいと思います。



図 葉の形のいろいろ (植物観察ノートより)



写真2 原種コーナー



写真3 レックス・ベゴニア

[文・写真 小林 孝次]

広島市植物公園

広島市佐伯区倉重三丁目495

☎ 082-922-3600 📠 FAX 082-923-6100

- 開園時間 午前9時～午後4時半 (入園は4時まで)
- 休園日 毎週金曜日
- 入園料 大人510円、高校生および65歳以上170円、中学生以下無料
- 駐車料 軽・普通自動車450円、中・大型車1,400円

